

浦添市の家計簿

問い合わせ
財政課

☎(876) 1234
(内線2117)

平成28年度下半期財政状況（平成29年3月31日現在）

浦添市の家計簿は、予算の執行状況や市有財産の状況、市の借入金等を中心に年2回公表しております。一般会計と特別会計の収入、支出については、出納整理期間が5月31日までとなっていますので、最終的な決算額は、6月1日以降になります。

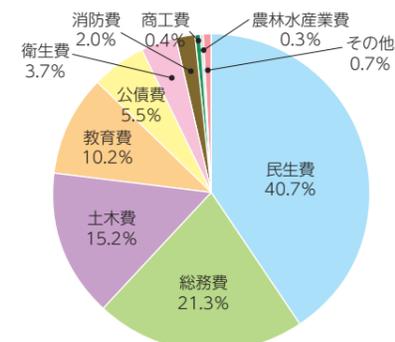
人口	113,578人
男	55,347人
女	58,231人
世帯数	48,100世帯
面積	19.48km ²

一般会計予算執行状況

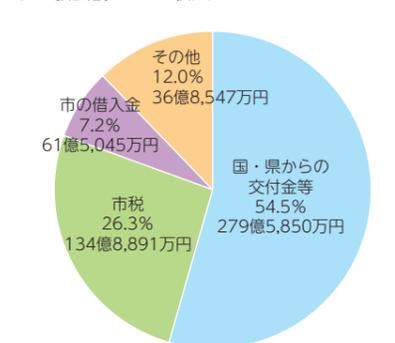
歳出科目	予算現額		支出済額 ()内は人件費		執行率
	金額	構成比	金額	構成比	
民生費	235億3,382万円	40.7%	213億3,950万円	(9億96万円)	90.7%
総務費	123億436万円	21.3%	104億2,656万円	(20億1,030万円)	84.7%
土木費	87億8,726万円	15.2%	73億1,581万円	(4億8,538万円)	83.3%
教育費	59億686万円	10.2%	56億6,750万円	(9億7,731万円)	95.6%
公債費	31億7,633万円	5.5%	31億7,528万円	()	99.9%
衛生費	21億4,371万円	3.7%	20億5,876万円	(2億5,761万円)	96.0%
消防費	11億8,421万円	2.0%	11億4,186万円	(7億2,379万円)	96.4%
商工費	2億1,890万円	0.4%	2億1,262万円	(5,644万円)	97.1%
農林水産業費	1億8,466万円	0.3%	1億2,657万円	(2,910万円)	68.5%
その他	3億9,261万円	0.7%	3億7,387万円	(3億1,123万円)	95.2%
総額	578億3,271万円	100.0%	518億3,832万円	(57億5,213万円)	89.6%

*各項目の合計と総額との相違に関しては、1万円未満の端数処理による。

●一般会計の主な支出



●一般会計の主な収入



●市民一人当たりに使われる主な経費

- ・民生費 207,204円 (生活保護、児童・母子・障がい者・老人の福祉増進など)
- ・土木費 77,368円 (道路・街路・公園の建設・整備・維持管理など)
- ・教育費 52,007円 (学校の管理・運営・増改築など)
- ・公債費 27,966円 (借入金の元金・利子など)
- ・衛生費 18,874円 (病気の予防・ごみ処理・公害対策など)

●市税の徴収状況（3月末時点）

	本年度課税分		滞納繰越分	
	金額	徴収率	金額	徴収率
収入済額	133億5,653万円	98.8%	1億3,238万円	33.3%
徴収すべき金額	135億2,179万円		3億9,801万円	

各会計予算執行状況

会計名	予算現額	収入済額	支出済額	執行率
一般会計	578億8,371万円	480億2,846万円	518億3,832万円	89.6%
国民健康保険	159億5,393万円	154億7,093万円	155億2,622万円	97.3%
土地区画整理事業	26億1,338万円	20億4,783万円	22億1,175万円	84.6%
公共下水道事業	19億7,496万円	15億9,012万円	17億7,200万円	89.7%
介護保険	67億2,906万円	66億3,341万円	64億7,853万円	96.3%
後期高齢者医療	9億3,451万円	9億7,125万円	9億432万円	96.8%
水道事業会計				
収益的収入	26億1,669万円	26億2,209万円		100.2%
収益的支出	26億1,516万円		25億981万円	96.0%
資本的収入	1億8,948万円	1億2,131万円		64.0%
資本的支出	8億5,617万円		5億1,905万円	60.6%

●市の借入金（3月末現在）

借入現在高	389億3,870万円
市民一人当たりの借金	34万円
一日当たりの支払利子	140万円

●一時借入金の状況（3月末現在）

一般会計	0円
国民健康保険特別会計	0円
介護保険特別会計	0円
公共下水道事業特別会計	0円
土地区画整理事業特別会計	0円
水道事業会計	0円

市有財産の状況



この平和が、この笑顔が
ずっと続いて欲しい

武器を手にした人間同士が殺りくを繰り返して、住民をも巻き込んだ先の大戦ではおよそ20万人（うち沖縄県民が15万人）の命が命を落としました。

戦争の記録を辿る中で出会った5人の戦争体験者からは、壮絶なまでの戦争の記憶が語られましたが、決して言葉に言い表せないにしみ出る想いを感じました。

人々は絶望の淵に立ちながらも「死んでしまつてはおしまい」「生きてこそ世のため、人のためになる」という想いで必死に生き抜きました。

悲惨な歴史の教訓から生まれた言葉が「命（ぬち）どう宝」（命こそ宝）という言葉であり、生きたくても生きることができなかった人たちの想いや生き延びた人たちの「真に平和を願う心」が託されています。

その心をどのように伝えつなぐかは、人それぞれ。紙芝居という形で伝える者もいれば戦争の追体験から戦争の歴史を学び平和への想いつなぐ取り組みを行う中学生たちがあります。72年経った今だからできる伝え方があります。

あなたならどのように平和への想いを伝えますか？

今、激戦地だった前田高地からは、整備された道路や建ち並んだ家々が見え、学校からは子どもたちの元気な声が聞こえてきます。浦添には可愛らしいピンク色の花が咲き、浦

添城跡付近に広がる芝生では家族が憩い、子どもたちが花を摘んだり、笑顔で駆ける光景が見られます。

平和とはその何気ない光景そのものであり、今平和を感じられるのは先の大戦で失った多くの命の上に立っていることに気づくことはもちろんですが、「命（ぬち）どう宝」という信念の下生きてきた私たちのおじいちゃんおばあちゃんが居たから私たちが存在するということに感謝しなければなりません。

悲惨な歴史を乗り越えて国籍の違う者同士が家族となり強い絆で結ばれる。悲惨な歴史から目を背けずお互いのことを知る、「相互理解と共存意識」を高めていくということが平和を維持していくためには重要であり平和への第一歩なのかもしれません。

この時期、前田高地周辺にはシロツメクサが多く咲き乱れます。ある人によると四葉のクローバーが多く見つかる場所があると言います。

それはもしかすると、戦争で亡くなった人々の平和を願う想いの現れなのかもしれません。

激戦地だった前田高地が幸せの地と書いて「前田幸地」であるようにと、いつまでも幸せな笑顔が絶えぬ世の中であることをこの地から願わずにはいられません。

広報うらそえプレゼント企画

手作りの四葉のクローバーキーホルダープレゼント

応募の条件など詳しくは市のホームページをご覧ください。



市のホームページ▶

